

## 令和3年度佐賀大学研究者国際交流支援事業報告書

令和4年 1月13日

国際交流推進センター長 殿

下記のとおり報告します。

1. 国際研究集会名	The 1st Tominaga Laboratory International Webinar ~ Sustainable Development through Science and Technology		
2. 事業責任者 (申請者)	富永 昌人	3. 所属・職 名	理工学部・教授
4. 開催期間	令和 3 年 12 月 22 日 ~ 令和 3 年 12 月 22 日		
5. 参加者数 ※参加者名簿(様式 任意)を添付	参加者数 <u>273</u> 名(延べ人数) (常時、180名前後が参加) うち、 <u>外国人</u> 数 <u>273</u> 名、 <u>学生</u> 数 <u>52</u> 名 (修士課程以上)		
6. 支援金額	金 額 <u>200,000</u> 円		
7. 招待講師	<p>所 属 <u>スラバヤ工科大学</u> 職 名 <u>教授</u> 氏 名 <u>Fredy Kurniawan</u></p> <p>所 属 <u>スラバヤ工科大学</u> 職 名 <u>准教授</u> 氏 名 <u>Raden Darmawan</u></p> <p>所 属 <u>ムハマディア大学パレンバン校</u> 職 名 <u>講師</u> 氏 名 <u>Mardwita</u></p> <p>所 属 <u>カリマンタン工科大学</u> 職 名 <u>准教授</u> 氏 名 <u>Jatmoko Awali</u></p> <p>所 属 <u>スリビジャヤ大学</u> 職 名 <u>准教授</u> 氏 名 <u>Leily Nurul Komariah</u></p> <p>所 属 <u>ブン・ハッタ大学</u> 職 名 <u>教授</u> 氏 名 <u>Reni Desmiarti</u></p>		
8. 謝金支出額	<p>金 額 <u>147,000</u> 円</p> <p>(内訳：各招待講演者への謝金@20,000×6 = 120,000円、大学院生への運営補助の謝金：20,000+7,000 = 27,000円)</p> <p><u>上記以外に、53,000円を支出</u> (内訳：証書ホルダー代、事務費用代(特に、証書の印刷のためのプリンタのインク)、Webinar用の追加HP作成費、6名の招待講演者と5名のベストQuestion受賞学生への記念品代)</p>		

<b>9. 国際研究集会の内容</b>	
<p>下記のプログラムで進行した。(詳細は、別紙の General over view を参照ください。)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オープニングスピーチ (理工学部豊田学部長)</li> <li>2. ウェルカムスピーチ (理工学部富永教授)</li> <li>3. 記念撮影</li> <li>4. 招待講演者 3 名による研究発表と質疑応答</li> <li>5. 休憩</li> <li>6. 招待講演者 3 名による研究発表と質疑応答</li> <li>7. 閉会</li> </ol>	
<b>10. 特記すべき成果・波及効果</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一挙に、理工学部との協定校であるインドネシアの大学 5 校から 6 名の研究者から招待講演を頂いた (スラバヤ工科大学、カリマンタン工科大学、スリビジャヤ大学、ムハマディア大学パレンバン校、ブン・ハッタ大学)。</li> <li>2. 現地訪問が出来なくて最近疎遠になりつつあった研究者との交流を継続・深化できた。</li> <li>3. 講演者の所属大学も含めて 10 大学・研究所からの参加があった。</li> <li>4. この国際 Webinar の開催を通して、佐賀大学の名前のプレゼンス向上に繋がった。</li> <li>5. 参加学生全員に参加証明書を発行した。</li> <li>6. 国際 webinar の準備・運営を一通り経験したこと、大学院生による運営補助のスキルが極めて向上したことによって、次回開催が容易になった。</li> <li>7.</li> </ol>	

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていただいても構いません。